

地域市民の集い「新町文化センター圏域」議事録（敬称略）

日時：令和6年2月18日（日）10時～12時

会場：新町文化センター 3階 講堂

出席者：自治連 5名／志水、山岡、椋田、福田、谷本
町会・自治会 19町会・自治会 総勢24名

書記：山田登志郎

司会進行：椋田

1, 会長挨拶 志水自治連会長 時候挨拶

2, 各部挨拶・事業紹介

1) 協働対策部 山岡自治連副会長兼協働対策部長

- ・災害に対する地域の自治会活動を披露。防災備蓄品の購入を都の助成金制度を利用。
- ・自治会活動のマンネリ化を懸念して、活動の根本には楽しいと思えるように企画をすべき。活動を義務だと思われてはならない。若い方を引き入れる手段として新たな方法としてのデジタル活用は重要。災害対策としてドローンの活用を企画し操作を学ぶ募集を行い現在訓練中。

2) デジタル対策部 福田デジタル対策部長

- ・地元の自治会で電子回覧や、「ザ・ご近所」という名のLINE配信をしている。
- ・各自治会でのデジタル化に協力することに注力している。
- ・新しい形の町会づくりとして若い方との連携をすべき。
- ・つながりに、SNSを活用し会員同士や役員間で情報共有。

3) 助成金支援相談員 谷本

- ・関東大震災100年助成金で30万円の補助金を申請された町会は多かった。
- ・新年早々の能登半島地震が発生し。東京にも30年以内に70%で発生の恐れ有り。
- ・発災時の停電対策として懐中電灯や電池の備蓄、ガスの停止時対策としてカセットコンロを2台用意しボンベも備蓄、水についてはペットボトルなど必要量をストックすべき。ローリングストックを奨励。発災時の一番の問題はトイレであり対応策として携帯トイレや災害用トイレを備蓄。BOSSの消臭袋やマイレット等を推奨。
- ・家庭における災害対策必須品目として10品目を自治連では推奨している。

4) 事務局 椋田事務局長

- ・自治連ニュース(NO、30号)の内容説明
- ・freeWIFI用のルーターの貸し出しを実施します
- ・タブレット(10台保有)の貸し出しも実施。

※生活安全対策部、福祉対策部は別件で欠席の為省略。

3, 参加町会・自治会からの質問及び意見

1) へちま会（松野会長） 小さな自治会で細々と活動するも高齢化で大変。自治連との連携など課題有り。

2) 浅間町紫草会（秋山） 役員が1年ごとの輪番制。高齢化が顕著。造成地が増えて若い方が増加するも自治会には未加入。要支援者対策の見守りもままならない。個人情報を知りたくない、知らせたくないとの理由。親族が市内に居住してれば良いが、遠方に住んでいる場合の対応をどうするのか。支援が可能な方をどう決めるのか。

※事務局から⇒要支援者対策は各町会が申請しなければならない。市が対象者に伺い登録するかしないかを決定。支援者側からの要請を辞退することもある。要支援者のリストは包括センターと民生委員と警察署が所持。

3) 浅間町2丁目 (大黒) 町会へ加入してのメリットが疑問。町会の班長になるならば退会する。町会の古い体質に加入する必要はない。地域でまとまってグループ化している。

※事務局から⇒自治会活動は古いと言われたり思われたりしているが活動を義務化しては駄目で、自治会活動を楽しみと思えるように、その楽しい感覚を大前提に企画すべき。コミュニティー作りに「人・物・金・情報」が必要であり特にデジタルでの情報共有が不可欠。若い方を中心に技術集団を組織化。退会者の増加や活動のマンネリ化を防ぐ手段の一つ。

4) 新町すみれ会 高齢化が顕著。自治会活動にメリットが無い事で退会。会の存続の危機役員は輪番制。

5) つくし自治会 加入率が4割以下。高齢化で要支援者対策は機能せず。圏域の自主防災連絡会は機能してない。防災対策は町会として無理。個人で対策。

※事務局から⇒自治会としての災害対策が無理な場合は個人での備蓄を推奨(3日から1週間分)。要支援者対策は地域ぐるみで対応。分梅町では防災備蓄を資機材によって会長宅や役員宅に分散管理と集中管理を実施。通信機器や消火器は分散し、車いすなどは集中させる。

6) 山吹会 (佐々木) 高齢化と輪番制で加入へのメリットが無いとされ、新規加入は無理。解散も視野に。公会堂が無く倉庫は共同。自治会の運営方法を検討

※事務局から⇒近隣自治会との共助の必要性。LINE 配信グループの活用もある。

7) 太陽睦会 35世帯でコロナ禍により無活動。会長職が輪番制で活動内容が不透明。何も出来ずに1年で交代。若い世代は仕事で無理なため高齢者が引き受けざるを得ない。複数年で計画を立案して活動を実施するよう検討中。

8) 浅間町4の3会 (山田) 近隣自治会の情報が不足している。

近隣町会⇒浅間町会館で情報交換している。

※事務局から⇒市側では自治会のエリアマップを作成する予定

9) あかね会 (小岩井) 自治会会員に乾電池を配布し大変喜ばれた。

10) 新町1の1会 (小早川) 高齢者が多く今年は休会を予定。

11) ゆたか会 32世帯 回覧板2通 輪番制で発災時が不安である

12) 晴見町曙自治会 自治会会費が年間1,000円で運用が難しい。輪番制。

13) 栄町3丁目第2自治会 (尾形) 28世帯 高齢化で役員のなり手がいない

14) 栄町2丁目自治会 (山田) 350世帯 15年ほど前の名簿が古くなり今年度新たに名簿再編で未加入者や退会者へのアプローチで加入促進中。

15) 三露自治会 80世帯 1班20世帯で4班 輪番制 会費が1,000円 8万円で活動 防災部は任期無しで活動 資源回収を財源にスタンドパイプを4台購入。資源回収時に地域での顔合わせで話が出来ることが収穫。都の助成金制度(関東大震災100年助成金)でエネポや投光器、蓄電池を購入できた。

※事務局から⇒防災に特化した役員を固定化し災害に対応。自治会の退会者は減少も。

ドローンを使用して多摩川流域の災害情報の収集を計画し操縦訓練中。

16) 新町3丁目住宅自治会 (加藤) 330世帯 集合住宅の、共用部の維持管理が大変

高齢化が顕著。子供会を作り以前実施した盆踊りや餅つき等イベントを計画

17) むつみ会 (安井) 安心できる道路や公園の維持管理をお願いしたい。自治会の機能を上げるため会報を発行してる。

18) 新町二十日会 (中根) 34世帯 自治会内で家族カードを作成 個人情報であるが秘密保持。スタンドパイプやエネポを所有している。新町地区は木造密集地域で、市から感震ブレーカーの頒布を予定と聞いている。

19) ヴェラクスガーデン府中自治会 220世帯 集合住宅でマンション管理組合と自治会で活動中。2年ごとに役員交替。安否確認や避難訓練を実施。

4, 事務局より閉会挨拶